



—東地中海地域ニュース—

パレスチナ：エジプトによる連邦制の提案に対するパレスチナ側反応
(4月16日付エルサレム・ポスト紙)

16日付エルサレム・ポスト紙は、PAが西岸及びガザ地区の連邦制(confederation)を樹立に向けたエジプト提案を拒否した旨報じている。概要は以下のとおり。

1. 15日、ラマッラのPA関係者は、エジプトとサウジ・アラビアがファタハとハマスの間の権力闘争を解決するための方途として、西岸及びガザ地区の連邦制を樹立するようパレスチナを説得している旨述べた。PA指導部は、最新の提案を西岸とガザ地区の分裂を固定化(solidify)するものとして拒否した。
2. 既に、ハマス及びファタハは、西岸及びガザ地区の2つのパレスチナ政府の任務を監視する高等委員会(higher committee)を設置するとのエジプト提案を拒否している。同委員会は、パレスチナ諸派代表から構成され、政治綱領(political agenda)を持たず、ガザ復興のための資金集めが主な目的となる。
3. 最新の連邦制のアイデアは、ファタハ及びハマス関係者にとって驚きであった。一部には、米国のユダヤ人による陰謀とする見方、独立国家というパレスチナ人の悲願に対して死亡診断書を発行するに等しい、とする向きもある。過去にもパレスチナは、イスラエル・アラブ紛争の解決策の一部として、ヨルダン、イスラエルとの連邦制を樹立するための提案を拒否している。
4. ハマスの反応
 - (1) ハマスのサラハ・バルダウィール幹部(PLCハマス会派報道官)は、連邦制の提案を「愚かなもの」として、ハマスとファタハの乖離は依然として大きい旨述べた。同氏は、「連邦制のアイデアは、パレスチナが2つの国家を持つことを意味しており、全く間違っている。これまで、我々は、西岸においてもガザ地区においても国家を持たないがために苦しめられてきた。(同提案は)シオニストを利するだけの愚かな考えである。ハマスは、ファタハとの相違を乗り越えるための新たなアイデアを議論する用意がある。カイロの和解協議は、米国、パレスチナの外部勢力からの干渉のために不成功に終わるだろう。」と述べた。
 - (2) 別のハマス関係者は、「先週、2つのファタハ代表団(emissary)がガザを訪問したが、挙国一致内閣の組閣、及び破壊家屋再建の責任の所在について、合意に至らなかった。最大の問題は、ファタハ及びPAがイスラエルや米国の重圧を受けて、ハマスから政治的譲歩をしないことである。しかし、ハマスは、自らの原則を放棄しない。」と述べた。

(3) ハマスに近い筋は、「西岸での PA 治安機関によるハマス支持者取締りが継続されていることも和解交渉失敗の主たる理由となっている。少なくとも 600 名が裁判もなしに西岸の PA 刑務所に収監されている。マジド・バルグーティ、ムハンマド・アル・ハジの 2 名が尋問者の拷問によって死亡している。PA 刑務所での身体への虐待によって、多数の拘束者が負傷しており一部は重症である」旨述べた。同筋は、「交渉は、アッバース大統領の治安部隊がパレスチナ人を逮捕、拷問する限り成功しない。すべての拘束者は、対話に向けたより良い雰囲気醸成するために、アッバース大統領から釈放されなければならない。」と述べている。